

農村地域活性化の定量的評価手法

A quantitative evaluation method for the activity level of rural areas

○國光洋二*, 津田渉**, 雜賀幸哉***

○ Yoji Kunimitsu, Wataru Tsuda, Yukiya Saiga

1. はじめに

農村地域の振興が農業政策の柱となり、農村地域資源の保全が新しい基本計画に位置づけられる中で、農村地域活性化のための政策的支援が重要な課題となっている。しかし、現段階では、各市町村の農村地域活性化がどのような水準になっているのかという定量的な評価がなされていないために、具体的な政策効果を検討することが困難な状況にある。

本研究では、県担当者や市町村担当者による自地域の活性化の取り組みに対する達観評価、及び住民による満足度評価の結果をもとに、各市町村における農村活性化の水準を定量的に把握、評価するための手法を検討する。

2. 調査分析の方法

①活性化度（県及び市町村担当者の達観評価）

静岡県の行政担当者（農林関係のセクション）及び全市町村の行政担当者（農林関係及び企画関係のセクション）に対してアンケート調査を行い、県内の各市町村の活性化に対する取り組み状況について達観評価を聞き取った。具体的には、取り組み項目別に各市町村を「1.特に進んでいる」「2.進んでいる」「3.平均的」「4.よく知らない」「5.その他」のいずれかに区分して評価するよう求めた。また、市町村担当者に対しては、自市町村の取り組み状況について、取り組み項目別に、「1.非常に進んでいる」「2.やや進んでいる」「3.あまり進んでいない」「4.ほとんど進んでいない」の中から選択を求めた。

聞き取った項目は、①自然環境や景観を生かした町づくりの取り組み状況、②地域おこしを通じた町づくりの状況、③周辺の市町村との連携を通じた町づくりの状況、④総合的に判断し、全体的にみた地域おこし、町づくりへの取り組み状況である。

②満足度（住民評価）

市町村の活性化は、そこに住む住民の効用を高めることによって効果をもたらすと考えて、住民の効用を在住市町村に関する満足度をアンケート調査により聞き取った。調査の対象は、静岡県の全市町村における100世帯（電話帳データベースから無作為に抽出）である。そのうち、50世帯分は男性、残り50世帯分は女性を指定して回答を求めた。

調査方法は、市民満足学会（株・ワード研究所）「地方自治体行政満足度調査報告書（中間報告）」にもとづいて、以下のように設定した。

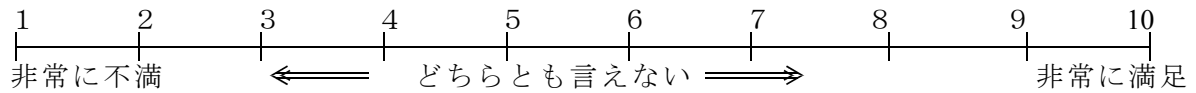
「あなたは、今住んでいる市町村に、どのくらい満足していますか？ 1～10までの点数をつけてください。（非常に不満足な場合を1、非常に満足している場合を10として、該当するところに○をつけてください）」

* 農業工学研究所 *National Institute for Rural Engineering*

** 秋田県立大学 *Akita Prefectural Collage of Agriculture*

***農林水産省農村振興局 *Rural Development Bureau, Ministry of Agriculture, Forestry and Fisheries*

キーワード 農村活性化, 達観評価, 満足度, 定住指標, 産業指標, 農業指標



③得点化

市町村担当者及び都道府県担当者による達観評価の結果から、より高い評価から順に2点、1点、0点で得点化し、担当者全体の平均をとって市町村毎の活性化指標を作成した。また、満足度調査の結果についても、満足度の高い評価から順に10点から1点で得点化し、有効回答者の平均をとって市町村毎の満足度指標を作成した。

3. 調査結果

表－1 各指標による上位15市町村

No.	活性化指標 (県担当者)	活性化指標 (市町村担当)	満足度1	定住指標	産業指標	農業指標	林業指標	市町村民所得額
1	中伊豆町	竜洋町	細江町	浅羽町	掛川市	三ヶ日町	春野町	静岡市
2	大須賀町	掛川市	長泉町	豊田町	裾野市	大須賀町	龍山村	浜松市
3	掛川市	浜岡町	藤枝市	清水町	湖西市	菊川町	水窪町	富士市
4	豊岡村	由比町	豊田町	裾野市	浜岡町	浅羽町	天竜市	沼津市
5	静岡市	大仁町	富士市	長泉町	磐田市	榛原町	中川根町	藤枝市
6	岡部町	大東町	浜松市	吉田町	大井川町	金谷町	本川根町	焼津市
7	三ヶ日町	雄踏町	舞阪町	袋井市	清水町	長泉町	川根町	富士宮市
8	修善寺町	浜北市	焼津市	大東町	長泉町	浜岡町	佐久間町	三島市
9	天城湯ヶ島町	御殿場市	大仁町	浜岡町	豊岡村	湖西市	長泉町	磐田市
10	中川根町	静岡市	雄踏町	掛川市	浜松市	相良町	中伊豆町	浜北市
11	浅羽町	湖西市	静岡市	富士市	静岡市	袋井市	森町	掛川市
12	三島市	蒲原町	小山町	函南町	袋井市	島田市	引佐町	御殿場市
13	伊豆長岡町	富士川町	豊岡村	菊川町	豊田町	富士宮市	天城湯ヶ島町	島田市
14	藤枝市	沼津市	浜岡町	大井川町	浅羽町	森町	静岡市	伊東市
15	浜松市	佐久間町	龍山村	藤枝市	大須賀町	磐田市	富士宮市	袋井市
16	大仁町	長泉町	清水町	浜松市	相良町	掛川市	富士市	裾野市

(注)1.太字の市町村は、市町村担当者による達観評価が得られなかった市町村である。

2.産業指標、定住指標、農業指標、林業指標は、橋詰（2001）に従って、44の統計データから主成分分析を行って求めた集約指標（主成分得点）である。

表－2 各指標間の相関係数

単相関	活性化指標 P	活性化指標 T	満足度1	定住指標	産業指標	農業指標	林業指標	市町村民所得額
活性化指標 P	1.000							
活性化指標 T	0.162	1.000						
満足度1	-0.020	0.371	1.000					
定住指標	0.128	0.287	0.359	1.000				
産業指標	0.145	0.409	0.359	0.820	1.000			
農業指標	0.297	-0.001	0.073	0.493	0.521	1.000		
林業指標	0.033	-0.184	-0.138	-0.659	-0.461	-0.179	1.000	
市町村民所得額	0.158	0.130	0.307	0.221	0.317	0.129	0.020	1.000

4. まとめ

活性化指標及び満足度指標は、統計データで把握出来ない住民活動等の情報を踏まえたものとなっており、今後の分析上、有益な指標となりうる。また、指標間の相関は低いが、これら指標を元に定量的な分析が可能となり、政策評価の場面で活用可能と考えられる。

[謝辞] 本研究は、農村開発企画委員会「農村振興連携施策の評価分析調査」（農村振興局農村政策課委託調査）の中で実施したものである。調査において、農村政策課河江補佐をはじめ担当者の多大なご支援、ご示唆を頂いた。ここに記して深謝申し上げたい。